



バックナンバーはこちらから

東信教育事務所

co-create collaborate connect

研修の窓

来年度の校内研究

どうする？

… 1

授業から学ぶ

地域と連携して

学ぶ防災学習を！

… 2

考える部屋

あなたの学級に
特別な支援が
必要な子供が
入るとしたら…

… 3

社会教育

地域とともに

子供の未来を
創る

… 4

協働が咲かせ、
つながりが実らせる

子供理解を基盤に、対話と協働を通し、
地域とつながる学びや共生社会を目指した
取り組みを紹介します！

すべては
みんなの
笑顔のために

令和8年
(2026年)

2/12 Vol.5





来年度の校内研究 どうする？

～学校教育目標（目指す子供の姿）に向けて～

年度末は研究主任を中心にみんなで今年度の取組を振り返り、来年度の校内研究の絵を描いてみましょう。

研究主任のA先生は、先生方と今年度の校内研究を振り返りました。そこで出された意見を基に、改めて大切にしたいポイントを考え、来年度の研究計画を構想しました。

中学校区の研修は、子供の9年間の学びを考える良いきっかけになった。

学校教育目標（目指す子供の姿）についてあまり意識できなかったな。



日々の授業に生かせるヒントやアイデアが欲しいな。

気軽に、楽しく研究や研修ができるといいな。

学校教育目標（目指す子供の姿）と研究が結び付くように、年度初めと年度末に全職員で考えを共有しよう。

学校教育目標（目指す子供の姿）を意識した研究



A先生

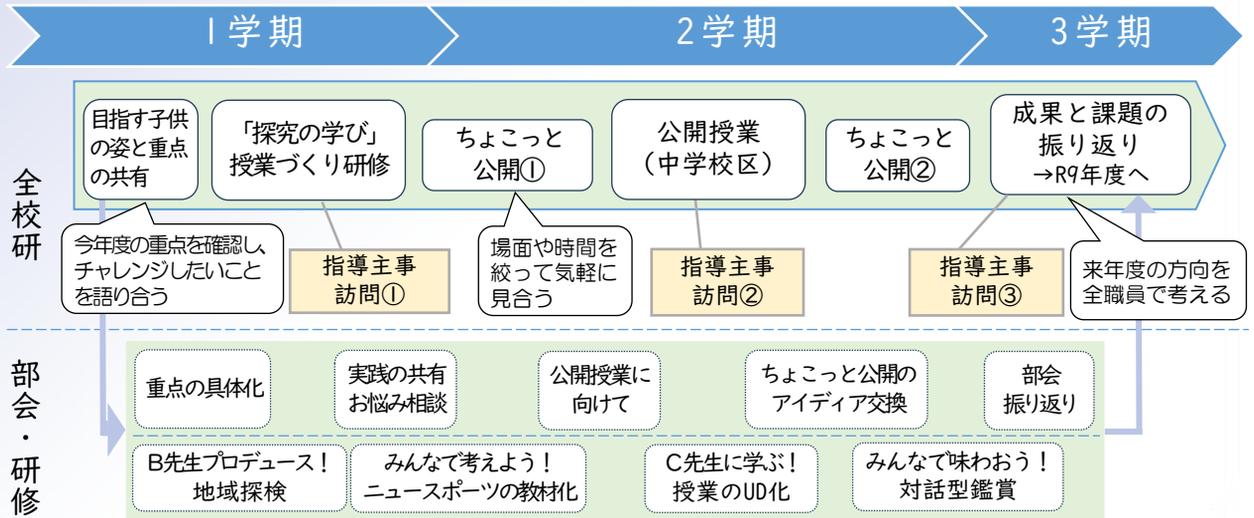
短時間でも日頃の悩みを語り合ったり、実践のアイデアを交換したりできる機会を増やそう。

対話の創出

先生方の取組の良さ、得意分野を生かす研修を取り入れよう。

先生方と創る校内研修

A先生が考えた来年度の研究計画



A先生は今後も先生方と話し合い、計画を具体的にしていく予定です。学校教育目標（目指す子供の姿）とのつながり、公開授業の時期、校内研修のあり方など考えてみましょう。



自校で取り入れてみたいことは？

各校の研究主任が作成した研究計画を参考にしてみてください。

研究主任研修会
(第3回：11/27)
研修スライド



学校教育目標（目指す子供の姿）に向けて、みんなで校内研究を進めることが学校づくりです。私たち指導主事もサポートします！



授業から学ぶ

(中学3年・総合)
「防災学習」

地域と連携して学ぶ防災学習を！

総合的な学習の時間で、災害から身を守るための学習を展開してきた第六中学校3学年の生徒。その過程で、防災にかかわる地域の方々から学び、地域を守るための学習へと発展してきました。

総合的な学習の時間における1・2年次の生徒の様子から、体験型の学習をデザイン

地域との繋がりや体験的な活動から意欲的に学ぶ姿がある。自分事になる問いと出合わせたい。



3学年の先生

◆地域に出て、多くの人と繋がれそうな「防災・減災」についてアンケートを実施

- ・生徒…防災意識は低く、学校の避難訓練に必要感を見いだせていない。
- ・職員…避難訓練のマナーリ化を解消し、実践的にしたいという課題意識がある。

➡ 防災学習「六中防災クエスト」Start!

生徒たちの問い・願いから始まる探究と先生方や地域の方々の関わり

★段ボールベッド・非常食・安心の蛇口などについてのお話(上市市危機管理防災課)
★煙発生体験(川西消防署)他、地元企業の方々

体験学習後にアンケートを実施



地域を守る大人



・煙体験は、ほとんど何も見えなくて怖かった。本当の煙だったら焦りそうだなと思った。
・学校の避難訓練だけでは足りないことがあることが分かった。

◆体験学習から現状の避難訓練に問題意識をもった生徒たちによる「新・避難訓練」

- ・避難訓練の企画担当の生徒のみが知っていて、他の生徒には周知をせずに実施
- ・先生方も知らされていない「トラブル」を想定(行方不明者あり・放送機器故障)

★先生方からの本音のフィードバック

新・避難訓練後にアンケートを実施

普段の訓練と違うことが起こり、すごく焦り、よい訓練になりました。



先生方



・改めて避難訓練の重要性を実感できた。(全校へのアンケートで、こうした声が急増)
・防災ワークショップや煙体験をしていただいた地域の方々のおかげだな。

◆体験を通して学んだからこそ育まれた「地域の方々にお返ししたい」という思いを活動へ

- ・1・2年次から、地域に向けて学習成果を発表してきた、生徒たちの「学び方」
- ・地域を守る大人への憧れと「学んだこと」を「伝えたい」という生徒の思い



SNSやポスターなどの方法があるけれど、お世話になった地域の方に直接伝えたいな。

これまでも地域で発表しているけど、その経験を生かして伝える方法を考えよう。



3学年の先生



この地域に住む方々に、楽しく、興味をもって学んでもらえるような「防災フェス」を開催しよう!



「防災フェス」ポスター制作



ブース毎の発表(フェス当日)

最初は、防災に対して意識が低かった生徒。しかし、先生方が、地域の方と体験活動を計画・実施することを通して、生徒の「地域を守る人への憧れ」や「防災についてもっと知りたい」という願いが大きくなり、「学んだことを伝えたい」というような思いになりました。学んだことを基にした手作りの「防災フェス」を運営する中学生の姿に、頼もしさを感じます。

考える 部屋

(特別支援教育)

あなたの学級に特別な支援が必要な子供が入るとしたら・・・ ～教育支援（就学相談）委員会の役割とは？～

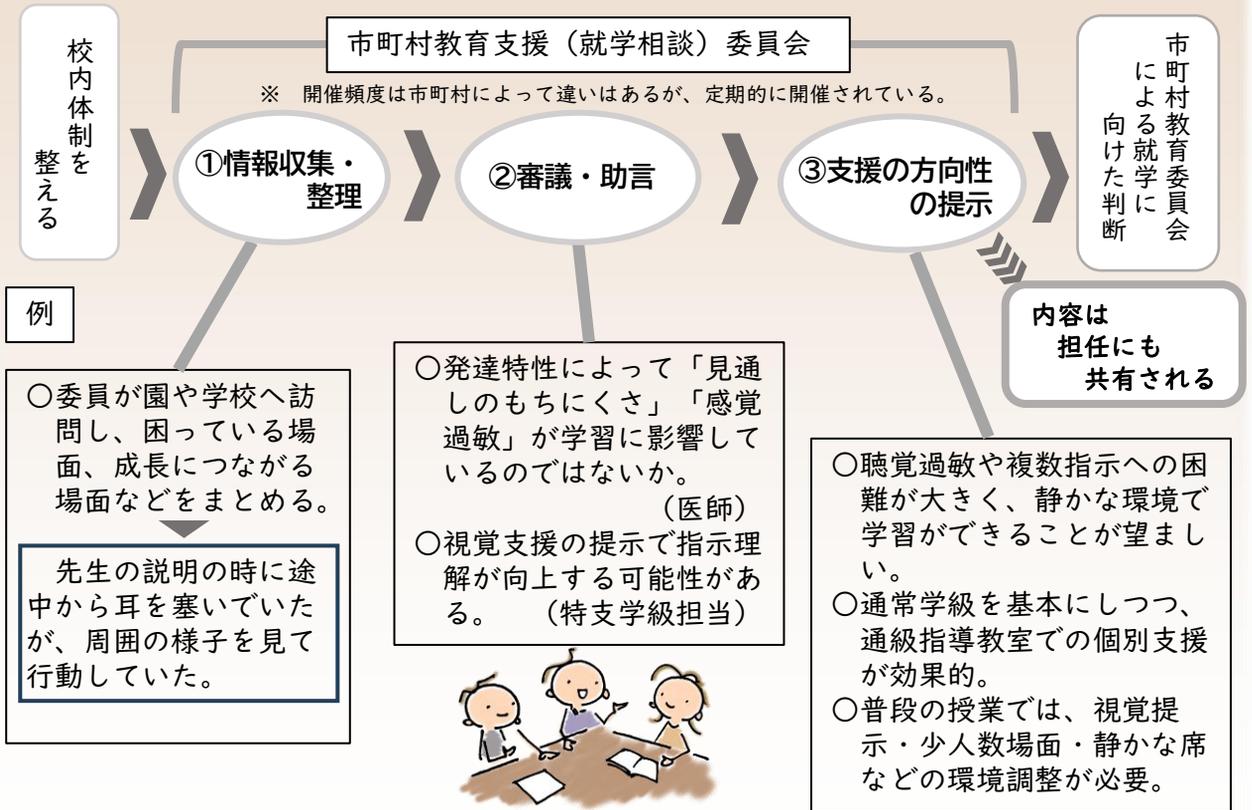
まずは、学級で可能な配慮をし、特コや学年会、校内教育支援委員会の力を借りて校内体制を整えます。その上で子供の学びの場や支援の在り方を共に考えてくれるのが、市町村教育委員会の「教育支援（就学相談）委員会」です。

メンバー

管内の小中学校長や教頭、医師、心理士、支援学級・福祉事業関係者、LD等通級・ことばの教室・支援学校の教育相談担当、市町村教育委員会職員など、市町村によって違いはある。

内容

メンバーがそれぞれの立場、専門性を発揮し、適切な学びの場と必要な支援の方向性を示す。



教育支援（就学相談）委員会での審議・助言は、担任が支援を組み立てる際の指針となります。委員会で整理された支援の方向性は、個別の指導計画に反映され、授業づくり・環境調整・保護者との連携へと確実につなげます。これにより、担任は支援の見通しをもって、子供に向き合うことができるのです。

特別な支援を必要とする子供が通常の学級で学ぶ機会は確実に広がっています。そんな中、市町村の教育支援（就学相談）委員会は、就学先の決定に関する助言だけでなく『この子に合った支援』を一緒に考えるチームでもあります。困ったときだけでなく、困りそうだと感じた時にも、「相談できる場がある」ことをぜひ覚えておいてください。

適切な学びの場を整えていくことについてさらに詳しく知りたい方は、こちら



社会 教育

地域と共に子供の未来を創る ～世代を超えた対話から始まるまちづくり～

現在、地域の未来を考える場に、子供や学生も参加する動きが広がっています。丸子まちづくり会議主催の「『子どもの明日を考える』まちづくりセミナー」は、世代を超えた対話を通じて子供も含めた関係者が「自分事」として地域課題を考える場へと進化し、持続可能な地域づくりの新しいモデルが生まれています。

【まちづくりは誰の仕事？】

「まちづくり」は行政の仕事と思われがちですが、住民一人一人が「当事者」として関わるのが不可欠です。この視点から、令和5年に丸子まちづくり会議主催の「子どもの明日を考える」まちづくりセミナーが始まりました。地域と学校が協働し、子供を育てるための方法や持続可能な地域づくりを考える場として発展しています。

【小・中・高・大学生と地域がつながる！丸子発、協働のまちづくりモデル】

セミナー開始当初は大人中心でしたが、「未来を考える場に子供がいないのはおかしい」との思いから、学校に呼びかけ、子供の参加が実現。第5回以降は地域住民・学校関係者・行政関係者・長野大学学生・小・中・高校の希望者が世代を超えて対話する場となりました。大学生は、グループワークのファシリテーターとして責任をもって関わり、地域との絆を深めています。また、小・中・高校生の視点は新しい視点をもたらし、参加者全体の意識に変化を生みきっかけとなりました。



【異年齢でのグループワーク】

【対話を通じた当事者意識の醸成】

セミナーでは講演に加えて、グループワークを重視し、「違いを楽しむ」「対話」を柱に展開しました。第9回のまちづくりセミナーでは、右のような問いに対して価値観の共有や熟議を取り入れ、異なる意見を尊重しながら合意形成していく力を育むことを目指しました。

- ①みんなが幸せって可能ですか？
- ②つながりって、正直、難しくないですか？
- ③お互いの意見の「ぶつかり」を楽しむためには？

【参加者の声】

大人が地域のことを考え、子供のことも大切に思っていることを知って嬉しかったし、自分も頑張ろうと思えた。
(中学生)

新しい視点を得られた。世代を超えた交流が新鮮だったし、大学生が真剣に丸子の未来について意見を出してくれたことがうれしかった。
(公民館職員)

対話を通して、自分の考えや活動を整理することができ、地域づくりの課題が明確になってきました。また、その課題について「自分ならどうするか」という視点で考える時間をもつことで、他人事であった地域課題が自分自身の地域課題へと捉え直されるきっかけにもなっていました。

地域の未来を考えたことにより、地域課題を「自分事」として考える意識が広がり、世代を超えたつながりが生まれました。地元企業からの協力も得られるようになり、地域連携の輪も広がっています。今後も、セミナーで生まれたつながりを日常でも生かし、子供と大人が共に学び、未来について考え合う場の創造が期待されます。

